

めぐみイエス・キリスト教会

2022年12月25日(日)クリスマス礼拝

午前10時30分より

週報「通算第638号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌68「久しく待ちにし」 p. 90

【交読文】 No.52 ルカの福音書第1章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 新聖歌77「きよしこの夜」 p. 105

【聖書朗読】 **ルカの福音書2章8節～20節 新約p. 110下段**

【礼拝説教】 《羊飼いとみどり児イエス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「ルカの福音書2章8節～20節」

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

2:17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。

2:18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。

2:19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

●ポイント1. 「王になる以前のダビデ」とは？

※詩篇23篇1節～6節「ダビデの賛歌から」 (旧約p.954上段)

23:1 【主】は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。

23:3 主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。

23:4 たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわいを恐れませんが、あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖それが私の慰めです。

23:5 私の敵をよそにあなたは私の前に食卓を整え頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。

23:6 まことに私のいのちの日の限りいつくしみと恵みが私を追って来るでしょう。私はいつまでも【主】の家に住みます。

●ポイント2. 「主イエス様と羊飼いとの関係」とは？

※ヨハネの福音書10章14節～15節「主のお言葉」 (新約p.202下段)

◎先週の礼拝メッセージ【受胎告知】

《今回は「受胎告知」の場面について考えて見ることにします。まず、「その六ヶ月目」とは、天使ガブリエル(神の人と言う意味)が、エルサレムの祭司ザカリヤに、年老いた妻エリサベツが懐妊し、男の子を生むことを、告げ知らせしてから、六ヶ月目と言うことです。この時、マリアは両親(父はヨハキム、母はアンナ)と共にナザレに住んでいました。

さて、突然、御使いがマリアの所に現われたのです。ルカは書き記してはいませんが、マリアにもガブリエルは、名乗り出たはずです。なぜなら、そのことが、マリアが信じる為の指針になるからです。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。」

「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私はまだアルマーです。」

「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。

それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。今

はもう六か月です。神にとって不可能なことは何もありません。」

「ご覧下さい。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおり、この身になりますように。」

ここに、マリアの篤い信仰を垣間見ることが出来ます。マリアはすぐ

に立って、エルサレム近郊のエンカレムの町に急ぎました。そして祭

司ザカリヤの家に行き、エリサベツに挨拶します。すると、ここでも、確

固たるマリアへのしるしが、エリサベツを通して表わされます。「主によ

って語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」と。》

お知らせ

※新年、1月1日(日)の礼拝はお休みで、1月8日(日)からとなります。

なお鈴木師は「みどり児イエス・キリスト教会(鶉飼牧師)」の1月1日(日)

午前10時からの礼拝に、奏楽者として参加して来ます。